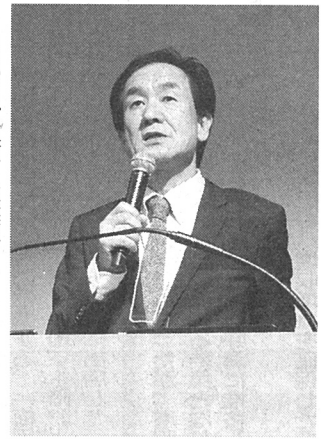


基調講演する松本大地氏



4月19日、東京・秋葉原の富士ソフトアキバプラザ5階アキバホールにおいて、本紙で連載中の「商いの新しいものさし」連載100回を記念したシンポジウム「歴代ポートランド視察6団長と語る 新元号のものさし」が開催された。

ポートランド視察 歴代団長ら語る

商いのものさし シンポジウム

り、無印良品の取り組みは半歩先を行く新しいものさしだと評価した。さらに地域満足(LS)を高めていく取り組みも重要と述べた。

続いて、「歴代視察団長が語るポートランドと実践」として、本紙と商い創造研究所が毎年企画するポートランドツアーの歴代視察団長6人が登壇した。

最初に、「商いの新しいものさし」を執筆する商い創造研究所代表取締役の松本大地氏による基調講演が行われた。「人やマーケットの半歩先の変化を解く、商いの新しいものさし」と題して、ネット時代だからこそ求められる新たな価値創造を提案。例えば、無印良品では新業態の開発に積極的で、無印良品の商品が体感できる「MURIHOTEL」など時代を反映する店づくりができてお

様々な意見やアイデアが出たトークセッション



のライフスタイルと街づくりの手法をさらに進化させ、エリアや施設特性に応じて取り入れていく考え。

JR西日本S C開発(株)顧問の山田宗司氏は、ロサンゼルス・エンゼルスとの試合を団員と観戦した話から、

JR西日本の取り組みまで談笑を交えながら展開。これからは行政・S・C・地域が連携する新しいスキームの創出が必要だとした。

最後に、コーディネーターに本紙編集長の松本顕介、パネラーに松本大地氏を交えたトークセッションを行った。トークセッションでは、各人の様々な意見やアイデアが出た。松本大地氏は、ECやSNS時代における商業施設の在り方について、例えばアパレルにおいて試着イベントを展開し、集客を図るなど斬新なアイデアを提案した。

◇地域密着と街づくり

倉(株)取締役会長の貞末良雄氏が、地元の鎌倉に恩返しをしたいという思いから、鎌倉市の職員とともにポートランドの視察に参加したユーモア溢れる話を展開。また、(株)生活の木 代表取締役社長の重永忠氏は、原宿表参道樺会(商店街振興組合)の取り組みを紹介したほか、ソーシャル・キャピタルを形成するには、組織の壁を越えて社会解決をしていくことが不可欠だと熱く語った。

三井不動産商業マネジメント(株)代表取締役社長の青柳久氏は、ポートランド